



Dr.とDH・DAがともに学べる学会

# 日本臨床歯周療法集談会／JCPG 第40回 記念学術大会



2023年10月15日(日) 9:55~16:30  
TKP市ヶ谷カンファレンスセンター



## 歯周療法 40 年の軌跡、 視えてきた未来。

歯科医師と歯科衛生士、歯科助手、受付、みんなで一緒に学び、医院力のレベルアップに貢献してきました JCPGも発足 40年を迎えました。

そして今回、第40回記念学術大会を4年ぶりの実開催で執り行う運びとなりました。

JCPGの集大成ともいえる、辰巳教授、関野准教授と長年の会員達によりリレー講演に加え、実開催ならではの、実習やテーブルクリニックなど、医院全員でしっかりと学ぶことができる豊富なプログラムを企画しました。

ぜひ会場で JCPGの熱を感じていただき、皆で学んでいきましょう！



実行委員長 Dr. 小林 友貴



Dr.とDH・DAがともに学べる学会

# 日本臨床歯周療法集談会/JCPG 第40回 記念学術大会

## 歯周療法40年の軌跡、 視えてきた未来。

### 2023年10月15日(日) 9:55~16:30 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター



### JCPG 第40回 記念学術大会 タイムテーブル

実行委員長：Dr. 小林友貴

大ホール	実習	テーブル①	テーブル②
9:55~ 開会の挨拶：Dr. 小林和一			
for Dr. for DH 10:00~12:40 プロローグ 「科学的根拠に基づいた歯周治療は、40年後も何も変わっていない」(基本治療を大切に) Dr. 清水雅雪  「モチベーションについて再考する」 DH諸見里清乃  「歯周基本治療の重要性」 DH花田素美  特別講演 「歯周病の新分類と最新のエビデンス」 Assoc.prof. 関野倫  ディスカッション	for Dr. 10:20~12:40 「切開と縫合&リグロスを使った歯周再生療法 ~これから歯周外科をはじめる先生方へ~」 Dr. 飯田倫太郎, Dr. 大藤竜樹 定員：15人 実習参加費：Dr. 10,000円	for Dr. for DH 10:20~11:20 「プロフェッショナルの二刀流メンテナンス ~歯周×咬合~」 Dr. 松島正和	for DH for DA 10:20~11:20 「安心へ導くコンサルテーション」 DH野呂佳奈子
12:40~13:30 ランチョンセミナー(ジーシー)			
for Dr. for DH 13:30~16:30 「再評価を考える」 Dr. 谷本亨  「歯周外科治療を再考する」 Dr. 畑中秀隆  特別講演 「インプラント周囲疾患の診断と対処法」 Prof. 辰巳順一  「メンテナンスの流儀」 DH安生朝子  エピローグ 「適切な処置をすれば歯は残り機能する」 Dr. 小林和一  閉会の挨拶：Dr. 小林友貴	for DH 13:30~16:30 「左右両利きDHかっきーのSRPセミナー」 DH柿沼八重子 定員：12人(1医院2名まで) 実習参加費：DH10,000円	for DH for DA 13:30~14:30 「患者指導からスタッフ間まで使える円滑なコミュニケーション術 ~臨床心理学を応用してスムーズに~」 DH清水さやか	for Dr. for DH for DA 13:30~14:30 「歯科診療所での栄養食事指導の視点と、その実際」 R.D. 鷗池香織

**会場** TKP市ヶ谷カンファレンスセンター (東京都新宿区市ヶ谷八幡町8番地)

JR総武線 市ヶ谷駅 徒歩2分 都営新宿線 市ヶ谷駅 4番出口 徒歩2分  
 東京メトロ南北線 市ヶ谷駅 7番出口 徒歩1分 東京メトロ有楽町線 市ヶ谷駅 7番出口 徒歩1分

会費	会員	非会員	年会費
Dr.	10,000円	18,000円	6,000円
DH・DT	6,000円	9,000円	3,000円
DA・受付	3,000円		3,000円
大学院生・研修医・学生	無料		

**先着150名に豪華お弁当を用意!**  
(9月15日までに申し込みの方)

参加申し込みは、QRからお申し込みください。

申し込み締め切り 10月5日(木)

※新規JCPG会員ご加入の際は、下記事務局またはJCPGホームページ内の入会案内よりご登録をお願いいたします。  
 ※今年度の年会費ご入金後、会員扱いとさせていただきます。(JCPG会員：入会金なし、年会費Dr.6000円、DH・DT3000円)  
 ※大会申し込みと同時に入会された場合の大会参加費は、会員料金が適用されます。  
 ※院長が会員登録している場合、その他のスタッフ(歯科医師を除く)はすべて会員扱いとなります。  
 ※学生の方は当日、学生証が必要となります。  
 ※お申し込み後のキャンセルは返金いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

事前抄録は、JCPGホームページよりご参照いただけます。

<http://jcp.org/>

## JCPG 第40回記念学術大会大ホール

### Prologue

科学的根拠に基づいた歯周治療は40年間何も変わっていない  
— 基本治療を大切に —

Dr. 清水 雅雪

### Epilogue

適切な治療をすれば歯は残り機能する

Dr. 小林 和一

JCPG 会員によるリレー講演に加えて、関野愉准教授、辰巳順一教授の特別講演を行います。  
国内外で著名なお二方と JCPG 会員の精鋭である先生方にペリオを語りつくして頂きます。

そして、JCPG 40年の礎とも言える清水雅雪先生、小林和一先生も登壇致します。

清水先生にはプロローグとして40年間不変であった歯周治療の真髓について、  
小林先生にはエピローグとして歯を残すための真の歯周治療の長期予後症例をご講演いただきます。



**Dr. 清水 雅雪**

愛知県名古屋市開業

<主な活動・所属>

日本臨床歯周療法集談会 副会長

日本歯周病学会 会員

日本顎咬合学会 認定医・指導医

スタディーグループ「PAFの会」

てんとうむしスタディグループ会員



**Dr. 小林 和一**

東京都世田谷区開業

<主な活動・所属>

明海大学歯学部付属 明海大学病院 臨床教授

明海大学歯学部 客員教授

日本顎咬合学会 指導医・監事 元理事長 (2008年 学術大会 大会会長)

日本臨床歯周療法集談会 (JCPG) 会長

日本歯内療法学会 永年会員

日本歯周病学会

日本補綴歯科学会

てんとうむしスタディグループ主宰



## モチベーションについて再考する

DH 諸見里 清乃 (モロミザト スガノ)  
那覇市 デンタルオフィス新都心



<略歴>

2006年 新大阪歯科衛生士学校 夜間部卒業  
卒後、大阪市内の歯科医院に勤務  
2011年 地元沖縄へ帰郷し数軒の歯科医院に勤務  
2022年 デンタルオフィス新都心に勤務

歯科治療において患者とのラポールの確立が重要であり、円滑なコミュニケーションを取る事が治療の成否を左右すると考えております。

私たち歯科衛生士は患者のモチベーションから始まり、歯周基本治療を経てメンテナンスに至るまで多くの時間を患者と共有し関わっていきます。

知識や技術的なことはもちろん、患者とスムーズにコミュニケーションをとりモチベーションを保つために興味を持てる内容を考えるという事が求められています。

モチベーションとは、人が一定の方向や目標に向かって行動しそれを維持する働きを意味し『動機づけ』『やる気』『きっかけ』とも呼ばれます。私が考える動機づけとは、患者が歯科治療に対してどのような欲求を持っているのかを把握し、モチベーションを維持するために患者のキャラクターを知り、歯科衛生士がそのキャラクターに合わせたアプローチを行うことで歯科治療に通う『きっかけ』をつくるのではないかと考えています。

今回、2症例を通して日々感じていることや現時点で思う私なりの患者へのアプローチ方法をお話しさせていただきます。

この発表を通して皆様方の明日からの診療の一助になれば幸いです。

## 歯周基本治療の重要性

DH 花田 素美  
小林歯科医院 勤務



<略歴>

2008年 北海道函館医療保育専門学校 卒業  
2014年 医療法人馨祐会小林歯科医院 入社  
2023年 現在に至る

<主な活動・所属>

日本顎咬合学会 認定歯科衛生士  
日本臨床歯周病学会  
日本臨床歯周療法集談会 (JCPG)

歯周治療を行う上で、最初のステップである歯周基本治療は極めて重要な位置づけであり、具体的な内容としてプラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニング、プラークリテンションファクターの除去である炎症のコントロールと、咬合調整や暫間固定などの力のコントロールがあげられます。

歯周基本治療は疾患の原因とリスクファクターを除去する原因除去療法であり、すべての歯周病患者に対して必ず行います。重度の歯周病患者においても当然必須であり、歯周基本治療を行いながら歯周組織の反応の観察や、その後の治療計画を立案します。

また、歯周基本治療中は患者教育を行う上で、コミュニケーションを図り、信頼関係を構築するために非常に重要な期間であると考えます。

日常の臨床で行っている歯周基本治療の実際を、症例を通してお話させていただきます。

基礎・基本を身につけて頂く事で、皆さまの明日からの診療に少しでも役に立てば幸いです。

## 歯周病の臨床のために重要な最新のコンセンサス

Assc.prof. 関野 愉  
日本歯科大学生命歯学部歯周病講座



<略歴>

- 1991年 日本歯科大学新潟生命歯学部卒業
- 1996年 奥羽大学歯学部歯周病学大学院修了、博士号取得
- 1999年 スウェーデン、イエテボリ大学歯周病学講座留学
- 2003年 アメリカ、フォーサイス歯科研究所留学
- 2005年 イエテボリ大学大学院修了、博士号取得
- 2006年 東北大学歯学部予防歯科大学院研究生
- 2011年 日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 准教授
- 2013年 日本顎咬合学会指導医取得

歯周炎はバイオフィルムのディスバイオシスが主因となる多因子性の疾患と考えられています。その病因論や病理像など実験主義の進歩によるアップデートされている部分はあるものの、プラークコントロールを主体として原因除去が歯周治療のメインであることはいまだに変わりません。

また、2017年に国際ワークショップが開かれ、その中で歯周病についての分類が新たに設定されました。この分類は「患者単位」であることが特徴です。

またもう一つ重要な基準として「健康な歯周組織」が定義されました。これは歯周治療後に最終補綴やメンテナンス /SPTに移行する基準として有用なものと考えられます。同時に、歯周炎のリスク因子や修飾因子等についても改めて協議され現状でのエビデンスがまとめて公表されました。しかし、歯周治療の内容を根本的に覆す知見はなく、むしろ以前からのエビデンスに基づいた治療の正しさが確認できる内容となっています。

今回は歯周病の臨床のために重要なトピックについての最新のコンセンサスを中心に解説していきたいと思います。

## 再評価を考える

Dr. 谷本 亨  
神奈川県茅ヶ崎市 タニモト歯科クリニック



<略歴>

- 2001年 北海道大学歯学部卒業
- 2001年 東京医科歯科大学口腔老化制御学講座 在籍
- 2005年 医療法人かめた歯科医院 勤務
- 2009年 タニモト歯科クリニック 開設

歯周治療を行う上で、最初のステップである歯周基本治療は極めて重要な位置づけであり、具体的な内容としてプラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニング、プラークリテンションファクターの除去である炎症のコントロールと、咬合調整や暫間固定などの力のコントロールがあげられます。

歯周基本治療は疾患の原因とリスクファクターを除去する原因除去療法であり、すべての歯周病患者に対して必ず行います。重度の歯周病患者においても当然必須であり、歯周基本治療を行いながら歯周組織の反応の観察や、その後の治療計画を立案します。

また、歯周基本治療中は患者教育を行う上で、コミュニケーションを図り、信頼関係を構築するために非常に重要な期間であると考えます。

日常の臨床で行っている歯周基本治療の実際を、症例を通してお話させていただきます。

基礎・基本を身につけて頂く事で、皆さまの明日からの診療に少しでも役に立てば幸いです。

## 歯周外科治療を再考する

Dr. 畑中 秀隆

茨城県日立市 アン歯科クリニック



歯周病の治療は、歯周基本治療が原則であり、その多くは基本治療で改善することが多い。そのような中でも基本治療だけで改善しにくいケース、深い歯周ポケット、複雑な骨欠損形態など歯周外科治療でないと対応できないこともある。歯周外科治療の多くは「取り残した歯石の除去」や「骨の平坦化」をイメージする。もちろん最も大事な目的であるが、よりプラークコントロールを行いやすくする目的で歯頸ラインを揃えることや、口腔前提の拡張など、いわゆる歯周形成外科も歯周外科治療の大きな目的だと考えている。今回は主に歯周形成外科に焦点をあて考えてみたいと思う。

<略歴>

- 1999年3月 鶴見大学歯学部卒業
- 1999年4月 港会港歯科診療所勤務（横浜市）
- 2001年4月 わたなべ歯科クリニック勤務（日立市）
- 2004年5月 アン歯科クリニック開業

## インプラント周囲炎の診断とその対応

Prof. 辰巳 順一

朝日大学歯学部口腔感染医療学講座歯周病学分野



- <略歴>
- 1986年 城西歯科大学（現：明海大学歯学部）卒
- 1990年 明海大学大学院 歯学研究科 修了
- 1990年 明海大学歯学部助手（歯周病学講座）
- 1995年 明海大学歯学部講師（歯周病学講座）
- 2006年 明海大学歯学部 准教授（口腔生物再生医工学講座 歯周病学分野）
- 2016年～2022年 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA）専門委員
- 2019年～ 朝日大学歯学部 教授（口腔感染医療学講座 歯周病学分野）
- 2020年～ 朝日大学医科歯科医療センター副センター長、医療安全管理室長
- 現在に至る
- <主な活動・所属>
- 特定非営利活動法人 日本歯周病学会
- 常任理事・専門医・指導医・口腔インプラント委員会委員長
- 特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 指導医

咀嚼機能回復療法の1つとしてインプラント治療が一般化し、今では国民の200万人以上が既に本治療法を受けているとみられる。その一方でインプラント治療後の併発症としてインプラント周囲粘膜膜炎やインプラント周囲炎が一定の割合で発症することは周知の事実である。2017年にAAPとEFPが公表した歯周病の新分類においてインプラント周囲炎についてもより正確に疾患の定義づけがなされた。この定義から類推すると我が国においてもインプラント治療を受けた患者のうち少なくとも約10%程度は周囲炎に罹患する。これに対し、インプラント治療後のメンテナンスについては2018年に日本口腔インプラント学会と日本歯周病学会から学会共同見解が公表されている。さらに2023年6月にはインプラント周囲炎に対するCPGs (Clinical Practice Guidelines)が公表され、北欧でのインプラント周囲疾患治療法の現時点でのエビデンスが報告されている。

そこで本講演では、インプラント周囲疾患の分類と対応法について現時点でのエビデンスを纏め、特に一次予防の観点から、疾患の発症予防につながるプラークバイオフィーム感染の可能性を低下させるための考え方や方法について述べたい。

# メンテナンスの流儀

DH 安生 朝子  
藤橋歯科医院勤務



<略歴>  
 1982年 栃木県立衛生福祉大学校歯科技術学部歯科衛生士学科卒業  
 1986年 スタディグループ「DHバトスの会」設立、現在顧問を務める  
 1987年 リンデ教授セミナー (ハワイ)  
 1988年 リンデ教授セミナー (イエテボリ大学)  
 1989年 藤橋歯科医院勤務、現在に至る  
 1991年 リンデ教授セミナー (イエテボリ大学)  
 1992年 SJCDロサンゼルスセミナー (USC)  
 2007年 (株)ジョルノ起業 代表取締役  
 <主な活動・所属>  
 日本臨床歯周療法集談会(JCPG)理事  
 (株)ヨシダ講師  
 日本顎咬合学会指導歯科衛生士

メンテナンスを長期継続するためには患者さんの来院なくしてそれはなり得ません。

しかし残念ながら来院が途絶えることはあります。私たちが考えます治療終了は通院終了ではありませんが患者さんの思いはどうでしょうか？

当院は 35年前から歯科治療中におきましてもメンテナンスの重要性を説明してきました。メンテナンス時に歯科医師は補綴物や修復物を含む咬合の検査や時に調整をし、またマウスピース継続使用の勧めなどを説明します。また歯科衛生士は口腔衛生状態の確認、歯周検査とプロフェッショナルクリーニングを実施して次回のメンテナンス時期の提案をします。メンテナンスに入りましても「チーム医療」であることに違いはありません。

本会では歯科衛生士の行うメンテナンスプログラムとして

- ①メンテナンス時の問診  
(体調や基礎疾患の変化と服用薬の確認)
- ②生活環境の変化と今後の事(仕事、家族、住居)
- ③口腔内検査(口唇、舌、粘膜、骨隆起)
- ④歯周検査(歯肉の様子、プロービング値の変化)
- ⑤ OHI
- ⑥ PTC
- ⑦食事のこと含む対談

長期症例をご覧いただきながら、メンテナンスのためにはいかにモチベーションと歯周基本治療が重要であるか再考させていただきます。

そして歯科医師に守られながら「患者さんを担当する」ことで得られる素晴らしい歯科衛生士人生を考えてみましょう。昭和から令和まで歯科衛生士を続けてきた安生朝子の胸の内。聞いておいてください、JCPGの娘たちよ。



## 切開と縫合 & リグロスを使った歯周再生療法 ～これから歯周外科をはじめの先生方へ～

Dr. 飯田 倫太郎

神奈川県茅ヶ崎市 飯田デンタルオフィス

Dr. 大藤 竜樹

神奈川県横浜市 横浜日吉おとう歯科



飯田 倫太郎

<略歴>

1995年3月 鶴見大学歯学部 卒業  
2005年11月 飯田デンタルオフィス開院(茅ヶ崎市)  
<主な活動・所属>  
日本口腔インプラント学会 専門医  
日本顎咬合学会 認定医  
有床義歯学会 認定医  
デンタルヘルスアソシエーツ TMSI セミナー講師  
Strauman Ortho Club湘南 Director



大藤 竜樹

<略歴>

22006年 日本大学歯学部卒業  
2006～2007年 日大歯科病院にて研修医  
2007～2012年 日大歯学部保存修復科大学院、  
卒業後医局員として勤務  
2012年～ 都内医療法人勤務  
2020年～ 横浜市内にて  
横浜日吉おとう歯科開院

これから歯周外科や歯周再生療法をはじめたい先生方へむけて、はじめの一歩を安心して踏み出していただけるような、基礎となる知識と手技を習得していただきたいと思っております。

保険適用となってから6年が経ち、歯周病患者にとって福音となった歯周組織再生薬剤「リグロス®」ですが、歯周外科がおこなえることで適正使用が可能となります。

リグロス®を使った歯周再生療法を成功に導くために、術前・術中・術後のマネージメントとあわせて非常に重要になるのが「切開と縫合」。実習ではガムシートや模型をもちいて切開と縫合のレクチャーをいたします。

リグロス®購入要件となっている科研製薬による製品説明、オーラルケア社による拡大鏡 SurgiTel®の貸し出しなどもあわせておこないます。

アシスタントはデンタルヘルスアソシエート主催 TMSIセミナーのインストラクターで、日常臨床に歯周外科をとり入れている先生方ですので、安心してご受講いただけると思います。

## 左右両利き DH かつぎの SRP セミナー ～ SRP の基礎知識と技術を身につけよう～

DH 柿沼 八重子

かめだ歯科医院勤務



<主な活動・所属>

かめだ歯科医院&かめだプライド歯科 チーフ衛生士  
日本歯周病学会 認定歯科衛生士  
日本顎交合学会認定歯科衛生士  
日本口腔インプラント学会

このセミナーでは、SRP(スケーリング&ルートプレーニング)のプロを目指すための第一歩を踏み出すことができます。SRPに必要な基礎知識と技術を学べる内容で、確かなスキルを身に付けるお手伝いを致します。

実践的な部分では、皆様に限られた時間の中で実習をたっぷり行っていただけます。ファントムに付着した顎模型を使用し、ポジショニングの確認やキュレットの操作方法などを実際に体験していただけます。セミナーは少人数制となっており、インストラクターから直接的な指導を受けることができますので、ご安心ください。

私自身は両利きですので、右利きの方はもちろんのこと、左利きの方にも器具の使い方や操作方法などを丁寧にレクチャーいたします。

また、新人の衛生士さんや日々の臨床で歯周基本治療に悩まれている方々にも特におすすめです。

是非、幅広い方々にご参加いただき、一緒にスキルアップの道を進んでいきましょう。

## プロフェッショナルの二刀流メンテナンス ～歯周×咬合～

Dr. 松島 正和  
東京都千代田区開業



<略歴>  
1990年 日本歯科大学歯学部卒業  
1992年 神田歯科医院開設  
2003年 医学博士号取得  
<主な活動・所属>  
日本臨床歯周療法集談会会員  
日本歯科大学生命歯学部保存学教室非常勤講師  
日本歯内療法学会会員  
日本顎咬合学会会員  
Osseointegration Japan(OJ) 会員  
日本大学医学会会員  
日本進化学会会員

私たちが歯牙を失う原因は何でしょうか？

厚生労働省 2018年のデータによると、1位歯周病 37%、2位虫歯 29%、3位破折 18%です。歯周病と虫歯で合計約 70%。歯科の2大疾患と言われる由縁です。どちらも細菌が原因です。予防にはプラークコントロールこそが必須となります。

次の質問です。では、「メンテナンス中に限って」と限定条件を付けると、私たちが歯牙を失う原因は何でしょうか？

なんと他を圧倒して断トツで1位に君臨したのは「歯牙の破折」でした。破折は細菌が原因ではありません。原因は力です。

これから日本は超高齢社会の真ただ中に向かっていきます。

みなさん歯科医療人が国民の口腔管理、メンテナンスに従事し、健康に寄与するためには、「口腔内に生じる力」を捉える知識と技術が不可欠なのです。今回は、顎口腔系の「形態と構造」から力のマネジメントを行う上で代表的な事柄をわかりやすくまとめてみました。

私の話がみなさまのあすからの臨床の役に立てば大変うれしく思います。

## 安心に導くコンサルテーション

DH 野呂 佳奈子  
関歯科診療所勤務



<略歴>  
2016年 仙台青葉学院短期大学 卒業  
2016年 医療法人社団 二十八歯略 関歯科診療所 入社

良い治療とは腕の良さだけではありません。

患者満足度の高い治療を行うためには、まず患者さんご自身に適切な治療選択をしてもらうことが必須となります。

理想的な治療案と、カウンセリングをする中で汲み取った患者さんの希望とをすり合わせる。

コンサルテーションは患者と歯科医師との間に立つ私たちだからこそできる業務だと考えます。

またコンサルテーションを成功させることは医院経営にも大きく関わってくるので決して蔑ろには出来ません。

ところで、カウンセリングについての授業は学生時代にあったものの、コンサルテーションの授業はあったでしょうか。

様々な患者さんに合わせその都度対応を変えていくことは難しく、更には苦手なタイプも各々ある中で仕事とはいえ負担に感じることもあるのでは？

見よう見まねで行っていたかつての私にとって、マニュアルがないコンサルテーションを成功させることはどの業務よりも難しく負担に感じることでしたが、今ではそう感じることも少なくなり成功率も上がった実感があります。

自分自身の負担軽減にもなるコミュニケーションスキル、各患者さんへのタイプ別診断を用いたアプローチ法についてお伝え致します。

## 患者指導からスタッフ間まで使える円滑なコミュニケーション術 ～臨床心理学を応用してスムーズに～

DH 清水 さやか

このは歯科クリニック勤務



<略歴>

このは歯科クリニック勤務

<主な活動・所属>

日本顎咬合学会

日本歯周病学会

メンタルヘルス協会 認定カウンセラー

東京糖尿病療養支援士

歯科医療現場において、患者、患者の家族、スタッフなどコミュニケーションを重要とする場面が多くあると思います。

その中で「どうして上手く伝わらなかったのだろうか。」「相手の言葉や行動でネガティブな気持ちを感じてしまう。」「どうしたらわかってもらえるのだろう。」などという悩みを抱く事もあるのではないのでしょうか。

今回は臨床心理学の中でも人格適応論について発表いたします。

人格適応論では人は 6つの人格的特徴に分けることができ、各適応タイプにはそれぞれ効果的な人間関係の深め方があると考えます。

まずは「自分自身」の適応タイプを知り受け入れ、「自分以外の人」を理解し共感することで良好なコミュニケーションが生まれます。

そのために必要な 6タイプの特徴や見分け方をお伝えします。

そしてそのタイプ別に合わせた対応方法を中心に OHIでの応用など、臨床を交えて明日の日常から使える内容をお話いたします。

## 歯科診療所での栄養食事指導の視点と、その実際

DH 鵜池 香織

認定栄養ケア・ステーション 港南台お口と食のサポートルーム



<略歴>

2005年 九州女子大学家政学部栄養学科卒業

2008年～ 慢性期療養型有床病院勤務

2012年～ さいま歯科医院  
(神奈川県横浜市 齋間直人院長)

2023年～ 認定栄養ケア・ステーション  
港南台お口と食のサポートルーム

人生 100年時代においては、栄養・食事の在り方について、いつまでも自分の口で食事が摂れることの重要性もクローズアップされている。

口腔疾患はブラッシングのテクニックや清掃習慣、食生活習慣や喫煙などの生活習慣の影響を受けた生活習慣病と深く関連していることがわかっており、全身の健康を維持するためには、歯科治療は欠かせないと考えられる。私は、食の専門家である管理栄養士として歯科診療の現場に携わっており、患者の口腔内の状態を歯科医師・歯科衛生士と共有した上で、普段どのような食事をしているのか食習慣を含めた生活状況を聞き取り、口腔の健康を維持・改善するための「食の面からできる」サポートを目指している。その中でよく行なっていることは、患者自身が食事記録を書くことで自らの食習慣に気がつき、その後の行動変容へと繋がるように関わることである。私の取り組んできた症例を提示しながら、栄養・食事の摂り方において留意すべきポイントと、明日から診療室で行う栄養食事指導へとつながる視点をお話したい。



JCPG  
40<sup>th</sup>  
Anniversary  
1983 - 2023

